

平成22年度 第3回 CCC 芸術系グループ運営委員会 議事概要

- I 日時 : 平成22年11月8日 11時から13時30まで
- II 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III 出席者: 小川委員、西垣委員、宮田委員、井澤委員、高田委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV 議事概要

1) 検討内容

学士力実現に必要な授業モデルの具体的な検討について

(1) 参考資料

- ①「美術・デザイン学教育における学士力の考察」
- ②「学士力の実現を目指す ICT 活用、授業の開発モデルの例示」
- ③「教育モデルの提案例」: (ICT に限らない全体モデルの例示)

(2) 事務局参考資料

- ①「「学ぶ力」低下に懸念」、「論争デジタル教科書」読売新聞、2010. 9. 19
- ②「「卒業の3年新卒扱い」提言の意味は」読売新聞、2010. 9. 27
- ③「「就活」は大学4年以降に」日本経済新聞、2010. 11. 1

資料 ①～③の資料からも、私情協における「新しい教育モデル教育研究」意義、方向性の正しさ、情報教育のさらなる検討、新たな大胆な教育モデルの必要性を再確認。

(3) 前回の宿題「先進的授業モデル案」に関して、出席委員から概説を行う

① 美術・デザイン教育における情報教育

教育における通信形式を使った授業例として、大学間を Web で結び、相互に検討し合いながら共同制作を進める。授業例として、「祭り」などをテーマに絵巻物、キャラクターの人形造りなどを制作、大学間で作業グループに分かれ共同作業を進める。また、大学間でアニメーション制作を共同で進め、「シナリオ」「作画」「音楽」「編集」などを、ネットワークを通じグループ単位で行う。到達目標3の到達度 ②「市民生活や組織との関係の中で作品制作を通じて、社会での機能性、利便性、生活の質向上等の実現に取り組むことができる」に該当する授業モデルと考えられる。

② ファイン・アートにおける授業案

芸術領域における学生の知識未成熟が産み出す問題を考える。年間の授業計画: 初年次: アカデミックな専門技術の基礎を構築。(同時に ICT による知識教育の導入) 2年次: 基礎的知識学習 (ICT の導入) を継続しながら、伝統芸術から現代芸術に至る表現の必然性を学ぶ。3年次: 知識を基盤に個性と将来の方向性を見つける。4年次: 自律した表現を実践する。ICT の活用は、知識育成の知覚化、学習様態の視覚化、授業内容の復習に活用、グローバルな価値観、情報、教材等に関する知識を入手し、実技授業時に知りたい情報を瞬時に提示、授業内容を視覚化することで授業内容を明解化する。基礎的知識学習 (ICT の導入) は、到達目標1の到達度 ③に相当する。

③ 5年後を見据えた理想的なモデルを想定

学力の向上、情報取得、多様なメディアで発信できる能力、コミュニケーション能力、

完成度の高い、また意味性のある（コンテンツ）制作の発信には、情報リテラシー教育が重要である。ICT は鉛筆が高度になったものにはかならず、ICT を切り離せない現実の中で、授業理解の基盤能力上語学力は重要である。また将来の教育を考えると、企業と大学との関係構築はより一層重要になる。また ICT 関連教育を考えると、技術教育面ではダイレクト・フィードバックの必要性も生じる。そして、ICT 使用問題に関して、身体・実体感喪失を産み出すことも指摘できる。到達目標 2 の到達度 ③「素材・メディア等を表現に活用し、創意工夫することができる。」に相当する。

④ 「コーディネート学習モデルプログラム」の一事例

ウェブを使用したスクラッチ・ネットワーク・プロジェクトを紹介。国内 4 大学、2 小学校、海外 2 つの学校とネットワークで結ぶ学習プログラム授業で、大学生の知識を統合し活かすことができた。授業で技術的協力性も必要不可欠となり、他者を意識した学習を可能にできた。プロジェクトはソフト名「スクラッチ」を使用。大学案内を制作した津田塾大学生作品を紹介。サイト：<http://sns.or6.jp/school-news/school-news>
宮田先生のブログの授業デザインのモデル例は、到達目標 3 の到達度 ②に相当する。
内容例：1. 【基礎】 2. 【ミニ実践】 3. 【社会実践】
サイト：<http://mudpie446.wordpress.com/コーディネート学習プログラム/>

⑤ 大学プログラムと企業とのコラボレーション例

学生が中小企業の求めるデザインを、集団発想法＝ブレイン・ストーミング でアイデアを出しウェブ・デザインを行う。この授業では、数回に渡るミーティングで、施主、デザイナー相互に教育的関係が萌芽し、社会性を学習することができる。

⑥ 素材メディアと表現に活用し創意工夫ができる授業例

ネットを使って学生制作プロセスを公開し、学生と作品制作過程を振り返りながら、学外からさまざまな意見を求める授業モデルを提示する。
到達目標 2 の到達度 ③に該当する授業モデルと考えられる。

⑦ 5 年後の授業モデルを考えた時、初心者教育、テレビ会議、PCゼミ等の、遠隔授業ツールを利用した、e-learning、リメディアル＝remedial を主体とした教育方法が考えられ、地域を超えたコミュニケーション学習に役立てることができる。現在、旭川県内でこうした授業方法を試験的に行っている。

⑧ ネットなどに授業を公開する場合、多種多様な意見に学生が戸惑い易い。その場合ファシリテーターなどの必要性が考えられ、こうした問題を考慮した授業モデル創出のシステム作りが必要になる。また、ワークショップの必要性が考えられる。

2) 次回までの課題

芸術領域において到達度設定は難しい。この点を考慮し 1 2 月末までに到達目標授業モデル 2 ～ 3 例を提示できることを課題とする。

V 次回の開催日程

現在未定。来年 1 月頃、メーリングリストを使用し、次回の会議予定を決定する。